

こんにちは!

村立東海病院



何が分かるの? MRI検査の有用性について

X線ではなく、磁気と電波を使用して臓器や血管などの断面を画像化するMRI検査は、身体のさまざまな部位を検査できるため、現代の医療には欠かせない検査となっています。今回は、MRI検査をすることで、早い段階から身体の異常を見つけることができる疾患を紹介します。

●頭部のMRI検査

主な疾患には、脳血管障害、腫瘍性疾患、炎症・変性疾患があります。急性期にある脳梗塞(梗塞が起こってすぐの状態にあるもの)はCT検査をしても細かく判断することが非常に難しいので、MRI検査が必要になります。検査をすることで脳動脈狭窄やくも膜下出血の原因となる脳動脈瘤を早期に発見することができます。その他にも、脳腫瘍や髄膜炎などの炎症性疾患のMRI検査も行っています。

●腹部のMRI検査

主な疾患には、腫瘍性疾患や炎症性疾患があります。超音波検査やCT検査において病変(病気が原因となり起こる身体の変化)を示す存在部位が不明瞭な場合や、病変の性質や状態をさらに詳しく知る必要がある場合に、MRI検査を行っています。肝細胞がん、胆道がん、膵がん、腎細胞がん、膵粘液性嚢胞腺腫などの腫瘍性病変を検査します。また、MRI装置を使って、胆管や膵管を撮影する特殊な検査(MRCP検査)も行っています。

●脊髄のMRI検査

主な疾患には、脊椎の変性疾患、外傷・腫瘍性疾患、炎症性疾患があります。椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症、脊髄損傷・腫瘍、化膿性脊椎炎などの検査を行っています。レントゲン検査やCT検査だけでは、これらの病気を診断することは非常に困難です。近年、当院でも転倒が原因で椎体の圧迫骨折をする患者が多く見られます。レントゲン検査をして、腰の骨などがつぶれているのが確認できたとしても、それが新しい骨折なのか、以前の古い骨折なのかを判断するには、MRI検査が有効になります。

●骨盤のMRI検査

主な疾患には、子宮筋腫や卵巣繊維腫、子宮がんなど婦人科系疾患があります。婦人科系疾患の画像診断では、経腹超音波、経腔超音波によるものが第1選択ではありますが、それだけでは十分な情報が得られない場合にMRI検査が追加されます。

●四肢・関節のMRI検査

主な疾患には、骨・腱・筋・靭帯損傷、骨髄疾患があり、損傷の有無とその程度を検査します。レントゲン検査では映し出すことが困難な骨折、肩腱板断裂、半月板損傷、前・後十字靭帯損傷、アキレス腱損傷、筋挫傷などの検査を行います。腫瘍や炎症の骨髄浸潤、骨髄壊死なども明瞭に描出することが可能です。CT検査よりも骨の撮影の精度が劣りますが、転移性骨腫瘍など骨の破壊性病変の撮影は、MRI検査の方が優れています。



今回紹介したのは一部の検査ですが、上記以外の検査も行っています。自分自身の身体の状態を細かく知るためにも、MRI検査は有効な検査です。ご不明な点がございましたら、担当医またはスタッフにお気軽にご相談ください。

村立東海病院 放射線室主任 川又敬介

【問い合わせ】村立東海病院(☎282-2188)、保健年金課地域医療担当(☎287-0899)